

5月に入ってゴールデンウィークも過ぎ、桜もすっかり葉桜となりました。今年の網走の開花は4月30日で、平年より11日、昨年より7日早かったそうです。また、網走の海明けも平年より17日、昨年より4日早い3月3日でした。その後、ケガニやホタテ、ホッキ、タコ、ホッケ、カレイ類などの漁業も始まり、海は賑わいを見せています。

▼3月下旬～4月上旬から始まったケガニ漁業は約1か月が過ぎ、オホーツク総合振興局が集計した4月末時点の速報では、操業日数が前年の1.2倍、漁獲量は前年の1.5倍になっています。海明けが早く好天も続き、ケガニの活動が活発になっていることが想像されます。4月14～28日にオホーツク総合振興局と管内各漁協けがにかご部会の協力を得て行いましたケガニ漁場一斉調査の結果は、漁獲の対象となる甲長8cm以上雄ケガニの1かご当たりの漁獲尾数は前年の1.3倍であり、今漁期の漁獲状況が良好であることを裏付けています。また、甲長8cm以上雄ケガニのうち脱皮後に殻が回復し実入りの良くなった堅ガニの割合は前年に比べ12ポイント増加しました。堅ガニの割合が高いからか輸入量の減少が影響しているのかわかりませんが、今のところ平均単価は前年より1割ほど高く推移しています。ただ、今回の調査結果では甲長8cm未満雄ケガニの1かご当たりの漁獲尾数が前年の半分と少なくなっており、来年以降に甲長8cm以上となって漁獲に加入してくる状況には、注意が必要に思います。

▼桜の開花や海明けが早かった今年の春ですが、昨年11月から今年の3月までに網走観測点で気圧が980hPa以下にまでに発達した低気圧が5回も発生しています。中でも12月16～18日に発生した低気圧は、24時間で中心気圧が1006hPaから948hPaへと低下し、北海道の東海上で猛烈に発達しました。各地で暴風雪や高波、大雪などによる被害が発生したことも記憶に新しいことです。この低気圧が海明け後のホタテガイ漁場にも影響していることが明らかとなりました。各漁協が行っている漁場調査や網走水試が網走漁協のホタテガイ漁場で行っている海底画像を利用したホタテガイ資源量推定技術開発の調査では、水深の浅い漁場でホタテガイの分布が極端に少なくなっている状況が見られています。強い波浪や流れにより漁場からホタテガイが流失したことが想像されます。平成16年や18年にも爆弾低気圧などと言われ、同様の被害が発生しています。網走水試では平成16年の被害時に、放流4年貝(殻高12cm、重量200g)を漁場から移動させてしまう条件として海底での流速(70cm/秒が長時間続く場合)を推測しています。この波浪による海底の流速は水深が深くなるにつれ減少していきますので、平成16年の時は水深約50mまでが被害の範囲でした。昨年の低気圧の影響がどのくらいの水深まで及んでいるかはまだ不明ですが、被害の少ないことを祈りたいです。最近「数十年に一度の・・・」という言葉をよく耳にするようになりました。異常気象が常態化しているようです。あらためて自然との向き合い方を考えていかなければならないと感じています。

(網走水試 上田)